

第89回日本循環器学会学術集会



ファイアサイドセミナー05 (FS05)

# 未来の高血圧診療

## The Future of Hypertension Treatment

日時

2025年3月29日(土) 18:10-19:00

会場

第4会場 (パシフィコ横浜 会議センター 3階「302」)

座長

演者1



荻尾 七臣 先生

自治医科大学 内科学講座 循環器内科学部門 教授・科長

Kazuomi Kario

Professor/Head of Department of Cardiovascular Medicine, Jichi Medical University

ここまできた高血圧最新治療

The Latest Advances in Hypertension Treatment

演者2



野村 章洋 先生

金沢大学融合研究域融合科学系教授／附属病院循環器内科

Akihiro Nomura

Professor, Department of Transdisciplinary Science, Kanazawa University Transdisciplinary Research Area/  
Department of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Hospital

高血圧個別化治療に向けたデジタル技術の現状と実践

Current Status and Practice of Digital Technologies for  
Personalized Hypertension Treatment

**参加方法** 事前予約、整理券当日配布はございません。直接会場へお越しください。

共催

第89回日本循環器学会学術集会／帝人ファーマ株式会社／  
帝人ヘルスケア株式会社／株式会社CureApp

## ここまできた高血圧最新治療

苅尾 七臣 先生 自治医科大学 内科学講座 循環器内科学部門 教授・科長

近年の国内外のガイドラインでは、血圧を「より早くから」「より低いレベルに」コントロールすることが推奨されている。

その根拠として、SPRINT試験、STEP試験、BROAD試験の3つのランダム化比較試験において、従来の診察室収縮期血圧140mmHg未満よりも120mmHg近くを目指すことにより循環器疾患の発症を20~30%減少させることが明確に示されている。ここに、“the lower the better”の概念は確立したといえる。

また、診察室血圧よりも夜間早朝を含めた24時間血圧コントロールの重要性を示すエビデンスも確立し、夜間血圧測定の重要性は、欧州高血圧学会から発行された高血圧治療ガイドライン2023ではClass Iで推奨されるに至った。特に夜間血圧が昼間より上昇するRiser型夜間高血圧は、心不全や脳卒中のリスクが極めて高い。また通常の降圧薬では昼間の血圧と比較して夜間血圧のコントロールは難しく、薬剤数を3剤以上

に増やしても夜間血圧コントロール不良となる割合は約45%にもおよぶ。薬剤治療抵抗性高血圧の多くは薬剤治療抵抗性夜間高血圧であり、その背景に睡眠時無呼吸症候群(SAS)が隠れていることが多い。

高血圧の治療には、通常の薬物治療に加えて高血圧治療補助アプリによる降圧および減塩・体重減少への影響、さらに腎デナベーションなども期待される。またSASを合併した高血圧の場合にはCPAPによる睡眠時無呼吸の改善と降圧への影響も期待される。夜間高血圧から早朝高血圧への移行は多く、最も血圧サージが生じやすい早朝血圧のコントロール状態は、通常の家計血圧測定でわかる。

ここまで来た高血圧最新治療、「朝の家計血圧の測定法」が医師国家試験に出題され、2025年には日本高血圧学会から「高血圧管理・治療ガイドライン2025」が発表される。これからは個別最適化実装高血圧治療である。

## 高血圧個別化治療に向けたデジタル技術の現状と実践

野村 章洋 先生 金沢大学融合研究域融合科学系教授／附属病院循環器内科

日常診療におけるデジタル技術の活用が求められる中、高血圧分野においては「デジタルハイパーテンション」と称する取り組みが日本高血圧学会を中心として体系化されつつある。本講演では、デジタル技術の中でも特にモバイルヘルスに焦点を当て、高血圧診療の個別最適化の実現に向けた取り組みを紹介する。前半では、個別化医療実践のためのデータを効率的に取得するためにモバイルヘルスを利用する例として、次世代の血圧モニタリング機器として活用

が期待されるカフレス血圧計の国内外の開発状況を紹介する。後半では、個別化医療の提供媒体としてモバイルヘルスを活用する例として、デジタル療法(Digital Therapeutics, DTx)というデジタル端末を介して生活習慣の修正を日常生活の最中でサポートし、その降圧効果を最大限に引き出すことを目的に開発された高血圧治療補助アプリCureApp HTについて、そのエビデンスと実臨床での活用法について概説する。